

ウガンダオーガニックコットンの付加価値を高める「ものづくり」でSDGs貢献

同社は、「日本タオル製造発祥の地」大阪府泉佐野市で、タオル生産の工場排水による環境汚染を食い止めるために、独自の生産プロセスを通じて、オリジナルブランド「真面綿（まじめん）」を製造・販売している。この独自の生産プロセスは、特許技術である「綿の自浄作用を活用した綿の処理方法」によって循環型環境ストレスフリーを実現している。また、原材料は、アフリカのウガンダ原産の良質なオーガニックコットン（無農薬有機栽培綿花）100%を使用し製造している。第7回ものづくり日本大賞受賞。

●所在地 大阪府泉佐野市上之郷2384番地
●電話/FAX 072-450-2018/072-450-2019
●URL <http://smileyearth.co.jp/>
●代表者 代表取締役社長 奥 龍将

●設立 2008年
●資本金 500万円
●従業員数 5人



SDGsへの取組みを通じて効果的なプロモーション活動

SDGs（持続可能な開発目標）ビジネスが今後高まる予想のなかで、他社に先駆けSDGsの実現に向けて、SDGsの啓蒙活動に積極的に取り組んでいる。例えば多様な外部関係者と連携し、地元で家族向けのイベント実施などを行っている。これらの活動を通じて、同社のブランドコンセプトである「真面綿（まじめん）」のブランドと付加価値の向上につなげ、消費者への効果的なモーション活動に成功している。



SDGsコットンペーパー絵手紙体験

環境に優しい独自技術の開発と付加価値を高める商品化

同社が所在する泉佐野市は、伝統産業であるタオル製造業が集積している地域であることが知られている。一方、最近は海外製品との価格競争の影響等で生産量が減少している。しかし、同社は良質な原料と安全で環境負荷の少ない生産方法にこだわり、安心して長く使える製品を製造している。特に安全面では、同社は化学薬品をほとんど使わない独自技術を開発し、特許を取得している。このこだわり製品を「真面綿」というブランドコンセプトとして打ち出し、着実に事業成果につなげている。



敏感肌な赤ちゃん向け製品の開発

ウガンダの経済振興と日本との連携強化に寄与

同社は、2015年にJICAの委託事業に採択され、ウガンダの綿産業振興に向けた調査を実施した。現在、ウガンダのコットン産地は内戦の影響で疲弊している状態にある。そのような状況下、同社は、原料のオーガニックコットンの99%をウガンダから輸入している。そのため、同社の事業は現地経済の振興に寄与しているといえる。今では、同社とウガンダとの信頼関係は強く、「アフリカの真珠」プロジェクトと題して、ウガンダ産コットンのプロモーション活動や市場開拓に取り組んでいる。また、泉佐野市へのウガンダホストタウン誘致や姉妹都市提携を主導し、地域活性化、国際化を推進している。



ウガンダと日本を繋ぐ強い絆